

NOTICES

Japan Patent Office is not responsible for any damages caused by the use of this translation.
 1. This document has been translated by computer. So the translation may not reflect the original precisely.
 2. *** shows the word which can not be translated.
 3. In the drawings, any words are not translated.

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 04-170925
 (43)Date of publication of application : 18.06.1992

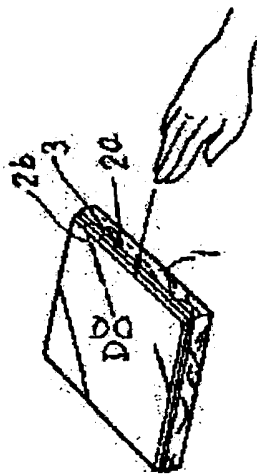
(51)Int.Cl.

A47K 7/00
 A47L 7/02
 A47L 13/17
 A61B 19/00
 A61G 12/00
 A61L 11/00

(21)Application number : 02-296931
 (22)Date of filing : 01.11.1990

(71)Applicant : TERADA NORIO
 (72)Inventor : TAKAHASHI SADATSUGU

(54) WATERPROOF TYPE WIPER



(57)Abstract:

PURPOSE: To surely prevent the wiper from adhering to a hand without using a rubber glove by coating or laminating one layer or more of waterproof films on one face of nonwoven cloth.

CONSTITUTION: On nonwoven cloth 1 whose base materials are cotton and a staple fiber, a waterproof film 2a consisting of vinyl chloride having a press- contacting performance whose size is the same as the nonwoven cloth is superposed, they are pressurized by a press and the waterproof film 2a is pressed against the nonwoven cloth 1. Subsequently, one piece of waterproof film 2b consisting of vinyl chloride is superposed thereto and it is cut to the same size as the nonwoven cloth 1 and waterproof films 2a, 2b three sides of both the superposed waterproof films 2a, 2b are subjected to waterproof adhesion processing. In such a way, the waterproof film 2a of the inside is welded or pressed against the whole face of one face of the nonwoven cloth 1, but as for the waterproof film 2b of the outside, only three sides of four peripheries are stuck to the inside

waterproof film 2a, and a bag-like inserting part 3 into which fingers and a hand can be inserted is formed.

Citation2

⑬ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平4-170925

⑤ Int. Cl.⁵

A 47 K 7/00
A 47 L 7/02
13/17
A 61 B 19/00
A 61 G 12/00
A 61 L 11/00

識別記号

B
C
A
F
W

庁内整理番号

6654-2D
8206-3B
9027-3B
7729-4C
9163-4C
7108-4C

⑬ 公開 平成4年(1992)6月18日

審査請求 未請求 請求項の数 5 (全5頁)

④ 発明の名称 防水式拭き取り具

⑥ 特 願 平2-296931

⑦ 出 願 平2(1990)11月1日

⑧ 発 明 者 高 橋 貞 嗣 神奈川県海老名市東柏ヶ谷2-18-33
⑨ 出 願 人 寺 田 典 夫 埼玉県浦和市別所2丁目23番16号
⑩ 代 理 人 弁理士 小林 正治

明細書

1. 発明の名称

防水式拭き取り具

2. 特許請求の範囲

(1) 不織布の一面に、防水フィルムを一層以上コーティング又は積層したことを特徴とする防水式拭き取り具。

(2) 前記不織布に消毒薬物が含浸されていることを特徴とする請求項1の防水式拭き取り具。

(3) 前記防水フィルムを二枚以上積層し、二枚の防水フィルム間に指や手を差込める大きさの袋状の差込み部を形成したことを特徴とする請求項1又は第2の防水式拭き取り具。

(4) 前記不織布と防水フィルムの積層体を、防水フィルムが内側に、不織布が外側になるように折曲げて、指や手を差込める大きさの袋状の差込み部を形成したことを特徴とする請求項1又は第2の防水式拭き取り具。

(5) 前記不織布と防水フィルムの積層体を、防水フィルムが内側に、不織布が外側になるように

重ねて、指や手を差込める大きさの袋状の差込み部を形成したことを特徴とする請求項1又は第2の防水式拭き取り具。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明の防水式拭き取り具は、例えば病院等の医療施設における医師、看護婦、検査技師等の医療従事者をはじめ患者関係者等が、診療や看護、検査等で使用した医療器具に付着した血液、医薬品等の汚物の拭き取りとか、病院等の医療施設において行なわれる人体や器物の消毒、廃棄処分する医療廃棄物の包装等に使用されるものである。本発明の防水式拭き取り具はこの他にもOA機器や実験室内の機器のワイピング、各種精密機器、電子部品等といった各種機器の拭き取りにも使用できるものであり、いずれの場合も作業者の手を汚すことなく使用することができるものである。

【従来の技術】

前記のような拭き取りには従来は木綿を主体とした繊維織物のガーゼ、脱脂綿、ティッシュペー

バ等が主として使用されていた。

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら従来使用されているガーゼやティッシュペーパー等では、医療器具に付着している拭き取り物が血液とか液体薬品等の液状汚物の場合は拭き取り時にガーゼやティッシュペーパー等に吸収されて内部まで浸透し、更にはそれらを透過して拭き取り者の手に付着するのが通常である。そのため、拭き取り物に例えばB型肝炎をはじめとする特殊ウイルス等の病原体が含まれているような場合は、それらの感染を防止するために、拭き取り者がゴム手袋等を着用して拭き取り者の手指に前記拭き取り物が直接、付着しないようにしていた。このため、ゴム手袋の脱着が面倒であった。

【発明の目的】

本発明の目的は十分な拭き取り効果を有し、しかもゴム手袋を使用しなくとも拭き取り物が拭き取り者の手に付着するのを確実に防止でき、拭き取り者に拭き取り物中の病原体が感染する危険性

に、不織布1が外側になるように折曲げて、指や手を差込める大きさの袋状の差込み部3を形成したことを特徴とするものである。

本発明のうち請求項第5の防水式拭き取り具は第6図のように、前記不織布1と防水フィルム2の積層体4を、防水フィルム2aが内側に、不織布1が外側になるように重ねて、指や手を差込める大きさの袋状の差込み部3を形成したことを特徴とするものである。

前記不織布1としては既存のものも使用できるが、本発明では医療器具に付着している血液等の液状汚物を吸着して拭き取るものであるため、吸着性や吸水性の小さい合成繊維よりも、吸水性が大きく、素材を脱脂処理した木綿（天然繊維）とか化学繊維（マンメイド・ステープル・ファイバー）等を基材としたものが望ましい。この不織布1の厚さは使用目的により異なるが、一般的には2～4mm程度が適当である。

本発明で使用する防水フィルム2a、2bは血液、液体薬品等の液状汚物が透過しない特性を

がなく、また医療器具や身体の一部等を拭き取るだけでそれらを消毒することもできる防水式拭き取り具を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

本発明のうち請求項第1の防水式拭き取り具は第1図～第5図のように、不織布1の一面に、防水フィルム2a、2bを一層以上コーティング又は積層したことを特徴とするものである。

本発明のうち請求項第2の防水式拭き取り具は、前記不織布1に消毒薬物が含浸されていることを特徴とするものである。

本発明のうち請求項第3の防水式拭き取り具は第1図～第3図のように、前記防水フィルム2a、2bが二枚以上積層され、二枚の防水フィルム2a、2b間に指や手を差込める大きさの袋状の差込み部3を形成したことを特徴とするものである。

本発明のうち請求項第4の防水式拭き取り具は第4図、第5図のように、前記不織布1と防水フィルム2の積層体4を、防水フィルム2aが内側

有するものであればよく、既存の熱可塑性プラスチック（ビニール）フィルムや熱硬化性プラスチック（ビニール）フィルムを使用することができる。具体的には塩化ビニール、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステル等を挙げることができる。なお、この防水フィルム2a、2bは引張られたり、引掛かったりしても容易に破れない程度の伸縮性を有するものがよい。またその厚さは0.2～0.5mm程度のものが望ましい。

また、防水フィルム2a、2bの表面にはエンボス加工により凹凸を設けて、使用中の手の滑りを防止できるようにしてもよい。更に、前記防水フィルム2a、2bは品種別、用途別に着色して、種類や用途に応じて明確・容易に判別できるようにしてもよい。

本発明の防水式拭き取り具は不織布1を滅菌処理することにより、人体表面や患者の患部を直接拭き取るのに使用することも可能となる。

本発明において前記不織布1に含浸させる消毒薬物としては、病原ウイルスの不活化に効果のあ

る次亜塩素酸ナトリウムやエタノール等が使用される。その使用濃度はWHOが表記する有効濃度に準じて、次亜塩素酸ナトリウムでは0.5%、エタノールでは70%とするのがよい。

【作用】

本発明の防水式拭き取り具は以下のようにして使用する。

使用者は前記防水フィルムを手側にして把持するか、又は第1図、第3図のように二枚の防水フィルム2a、2bの間の袋状の差込み部3に指や手を差込むか、第4図、第5図、第6図のように袋状の差込み部3内に指や手を差込み、不織布1を拭き取り対象物に当てて拭き取り物を拭き取る。この場合、指又は手と不織布1との間には防水フィルム2a、2bが介在されるので、不織布1に吸収された血液や液体薬品等の拭き取り物が指や手まで透過することがない。これにより拭き取り物が指や手に付着するのを完全に防止し、拭き取り物の病原体が拭き取り者に感染するのを防止することができる。

もよい。この場合防水フィルム2a、2bの色を例えば消毒薬剤が次亜塩素酸ナトリウムであるときは青色に、同薬剤がエタノールであるときはピンク色に、同薬剤が含浸されていないときは白色にして、消毒薬剤が含浸されているか否か、更にはどの消毒薬剤が含浸されているかを使用者が容易に判別できるようにしてもよい。

本発明の防水式拭き取り具は例えば以下のようにして製造することができる。

まず、内側の防水フィルム2aの原材料となるポリプロピレンのペレットを加熱して、木綿を基材とする不織布1の一面に押出しダイスから押出し、それを圧縮ロールで加圧し、続いて引き取りロールで引き取り、更にこれを冷却ロールで冷却して巻取った後、別のポリプロピレン製の防水フィルム2bを前記内側の防水フィルム2aの外側に重ねてからそれらを所定の寸法に裁断し、両防水フィルム2a、2bの三辺を防水接着処理して完成される。

本発明の防水式拭き取り具は次のようにして製

また、前記不織布1が吸水性、吸液体性に優れているので、拭き取り物が液体である場合も容易に拭き取ることができる。しかも柔らかいので、医療器具等の拭き取り面に傷が付くこともなく、更にケバ立ちが少ないので細かい繊維が拭き取り対象物に付着することもない。

また、不織布1に消毒薬物が含浸されている防水式拭き取り具では、拭き取り対象物を拭き取るだけで消毒を同時に行なうことができる。

【実施例】

第1図～第3図は本発明の防水式拭き取り具の一実施例である。

これら図に示す1は天然繊維、化学繊維等を基材とする方形の不織布、2a、2bは伸縮性を有するプラスチックフィルムやビニールフィルム等からなる防水フィルムであり、この防水フィルム2a、2bは前記不織布1の一面にコーティングするか、或はそれらを例えばカレンダー加工等により圧着して積層されている。

前記不織布1には消毒薬剤を含浸させておいて

造することもできる。

まず、木綿及びステープルファイバを基材とする不織布1に、それと同じ大きさで圧着性能を有する塩化ビニールからなる防水フィルム2aを重ね合わせ、それらをプレスで加圧して同防水フィルム2aを不織布1に圧着せしめ、次いでこれに一枚の塩化ビニールからなる防水フィルム2bを重ね合わせてこれを前記不織布1、防水フィルム2aと同じ大きさに裁断し、重ね合わせた両防水フィルム2a、2bの三辺を防水接着処理する。

このようにすることにより、内側（不織布1側）の防水フィルム2aは不織布1の一面全面に融着又は圧着されているが、外側の防水フィルム2bは四周のうち三辺だけが前記内側の防水フィルム2aに接着されて、第1図に示すような指や手を差込める袋状の差込み部3が形成される。

また本発明の防水式拭き取り具では、前記のようにして不織布1の一面に防水フィルム2aを積層した積層体4を第4図、第5図のように、防水

フィルム2aが内側に、不織布1が外側になるようにして長手方向に折返し、その折返し部分の幅方向両端の防水フィルム2aを熱融着させる等して、手指を差込める大きさの袋状の差込み部3を形成してもよい。

更には本発明の防水式拭き取り具では、前記積層体4を第6図のように、防水フィルム2aが内側に、不織布1が外側になるようにして重ね合わせ、その重ね合わせ部分の防水フィルム2aの幅方向両端と長手方向一端を熱融着させる等して、手指を差込める大きさの袋状の差込み部3を形成してもよい。

なお、本発明の防水式拭き取り具を病原菌が含まれている成れのある拭き取り物を拭き取るのに使用する場合は、第1図のように前記防水フィルムの上面に医学上特殊な廃棄処理を必要とするマーク（バイオハザードマーク）を表記して、その用途を明確にすると共に、廃棄処理を行なう作業者に注意を促すようにするのが望ましい。

【発明の効果】

こともできる。

d. 拭き取り面に不織布1を使用したことにより、吸水性、吸液体性に優れ、液状の拭き取り物でも容易に拭き取ることができる。また、柔らかいので拭き取り面に傷が付かない。更にはケバ立ちが極めて少ないので、繊維が拭き取り物に付着することもない。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の防水式拭き取り具の一実施例を示す斜視図、第2図は第1図の防水式拭き取り具の積層説明図、第3図は第1図の防水式拭き取り具の使用状態を示す縦断面図、第4図は本発明の防水式拭き取り具の他の実施例を示す斜視図、第5図は第4図の防水式拭き取り具の使用状態を示す縦断面図、第6図は本発明の防水式拭き取り具の更に他の実施例を示す斜視図である。

1 は不織布

2 a、2 b は防水フィルム

3 は差込み部

4 は積層体

本発明の防水式拭き取り具は以下のような効果がある。

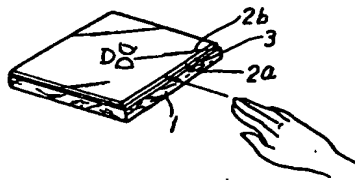
a. 防水フィルム2a、2bを不織布1の一面に、容易に破損しないようにコーティング又は積層してあるので、不織布1に吸収された液体薬品や血液等の拭き取り物が拭き取り者の手に付着するのを完全に防止でき、拭き取り物中の病原菌の感染を防止できる。従って、従来のようにゴム手袋を一々脱着する必要がなく、感染予防対策上の安全性が確実なものとなる。

b. 不織布1に消毒薬剤が含まれているので拭き取るだけで拭き取り面が消毒され、拭き取り作業が従来に比べより一層安全になる。

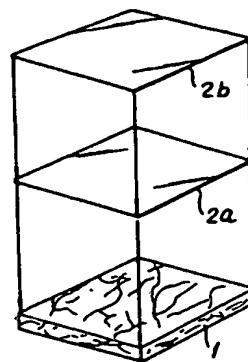
c. 二枚の防水フィルム2a、2bで袋状の差込み部3を形成したり、防水フィルム2aが不織布1に積層された積層体4を折返したり重ね合わせたりして袋状の差込み部3を形成したりしてあるので、同差込み部3の中に指や手を差込むだけで手軽に使用することができ、しかも手指の反対側（甲側）に拭き取り物が付着するのを防止する

図面の浄書(内容に変更なし)

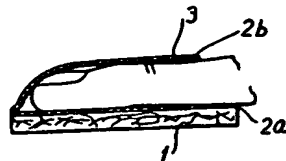
第1図



第2図



第3図



手続補正書

平成2年12月6日

特許庁長官 殿

1 事件の表示 特願平2-296931号

2 発明の名称 防水式拭き取り具

3 補正をする者
事件との関係 特許出願人
氏名 寺田 典夫

4 代理人 〒101 TEL 03-866-3327
住所 東京都千代田区岩本町3-4-5
氏名 第1東ビル
(7636) 弁理士 小林 正治



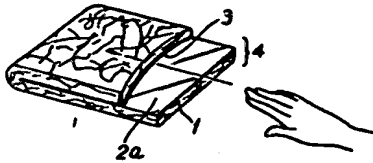
5 補正命令の日付 自発

6 補正の対象 図面全図

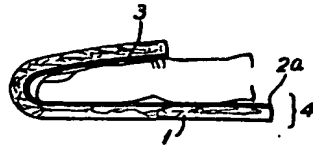
7 補正の内容 図面の浄書(内容に変更なし)
別紙の通り



第4図



第5図



第6図

